



漁生浦島より有福島を望む

令和元年 10 月 18 日

#### 防波堤道路

漁生浦橋を渡って直進し、峠を越えると急な下り坂になる。急坂の途中で視界が開け、眼前に有福島が広がった。

若松島の北には漁生浦島、有福島、日島という3つの小さな有人離島が飛び石状に連なっているが、この3つの島は防波堤道路で陸続きになっている。1970（昭和45）年に漁生浦島との間に、さらに1973（昭和48）年には日島との間に防波堤ができて、それぞれ防波堤の内側に臨港道路が整備された。外海側に高さ1.5mほどの防波堤があり、消波ブロックが積まれ、内側は車がやっとすれ違えるほどの幅員の道路がつくられている。

漁生浦島と有福島を隔てる海峡は200m以上離れており、また水深もそれほど深くないので、橋をつくるよりも建設費が安かったのだろう。

有福島と日島の間は100mほど離れておりしかも浅かったことからやはりこの方式が選ばれた。こちらの防波堤の外海側には消波ブロックが強固に積まれている。ちょうど北を向いているため、冬季には季節風の影響をまともに受けるからだ。ただ有福島は両側の2つの水路を埋め立てて遮断したことから船の航行はできなくなった。外海に出るためには日島の東端を回らなければならない。こうした不自由さよりも陸続きになることを望んだ結果と思われる。

このように海を埋め立てて道路をつくった事例は、沖縄県の野甫島と伊是名島間の事例があるが、やはり漁船が大周りしなければならないことから、その後、北部振興などの潤沢な予算を背景に道路を撤去して橋につくり替えている。

漁生浦島と若松島の間には橋が架かるまでは、3つの島から若松島に渡るには船を利用するしかなかった。島には高校がなかったので、船で若松島に渡り、バスに乗り換え、さら

に船で高校のある中通島に通った。

3つの島の中では有福島が一番大きく、面積は2.97km<sup>2</sup>、周囲10.0kmで、楕円形をしている。島のほぼ中央に馬頭山がそびえ、標高は236mとやはり3島のなかでは最も高い。



漁生浦島と有福島をつなぐ防波堤道路（左）

## 2つの地区

防波堤道路を渡って有福島に入ると、道路は2手に分かれる。右手が東地区、左手が西地区と呼ばれている。

有福島に人が住んだ歴史は古く、「シマダス」によれば、江戸時代には五島藩の藩牧場が置かれ、延宝年間（1673～81年）には鯨突組がつくられて捕鯨が始まっている。その後文政年間（1818～30年）には西彼杵半島の神ノ浦村からいわゆるカクレキリシタンの203人が入植している。

有福島は南松浦郡日島村に属していたが、1956（昭和31）年に若松村と合併して若松町になる。さらに平成の大合併で、若松町と有川町、上五島町、新魚目町、奈良尾町の5町が合併して、現在は新上五島町に属している。

2015年国勢調査時の人口は112人、世帯数は60戸であった。年少人口は3人だけで、高齢化率は58.0%に達している。就業者総数は40人だったが、このうち26人が漁業に従事しており、有福島はまさに漁業によって成り立ってきた。2019年9月末時点の住民基本台帳では、有福東が38戸73人、有福西が27戸38人の合計65戸、111人であり、国勢調査時とは大きく変わっていない。

1970年の国勢調査時の世帯数は123戸、643人（有福東：304人、有福西：339人）だったから、当時に比べると世帯数は半分、人口は約1/6に減少している。そして1970年当時は東と西地区の人口はほぼ同数であったが、現在は東地区の方が多くなった。つまり西地区の衰退がより顕著である。



西集落への道（左）、東集落（右）

## 有福水産

有福島の漁業者は若松漁協に所属しており、正組合員は15人である。管内の4つの島の中では若松島に次いで多い。島で営まれている漁業は、定置網、曳釣り、タコツボ、潜水器の各漁業である。

このうち島の漁業生産の大部分を占めているのが定置網で、有福水産㈱が運営している。同社は島の北部海域で、岸側に小型定置網、沖側に大型定置網を設置している。小型定置網の先から大型定置網の垣網が設置されているので、両方の網をうまく組み合わせて魚を大型定置網に誘導しているのが特徴だ。

年間の水揚げ金額は9,000万円程度で、基本的には漁協のルートで長崎県漁連を通じて消費地市場に販売しているが、最近は㈱バリューデータ（本社：奈良）が運営する業務用・漁師さん直送市場の会員になっており、大消費地の飲食店等の業務筋に直接送ることも始めている。

漁港には定置網の漁船が横付けされ、陸の野積み場では大きく展開した定置網の修理が行われていた。残念ながら有福水産で話を聞く時間的余裕がなかったため経営の詳細はわからないが、恐らく10人ほどの乗組員が必要と思われるので、有福島の貴重な雇用の場となっているのは間違いない。



野積み場で行われていた網の修理作業（右）、定置網の漁船（左）

定置網に次いで生産量が多いのが曳釣りで、8経営体が操業している。この日は漁閑期にあっているとみえ、トローリング竿を掲げた漁船8隻が漁港内の各所に停泊していた。曳釣りの対象は、クロマグロとタチウオで、前者の漁期は12～2月にかけての3ヶ月間、後者の漁期は9～10月と1～3月の合計5ヶ月間である。なお、クロマグロの漁獲は総量規制されており、有福島の割当量は5トンである。

この他にタコツボと潜水漁業をそれぞれ1経営体が営んでいる。潜水漁業はヘルメット潜水でサザエやトサカノリを漁獲しており、漁期は前者が5～6月末、後者が9～10月である。

## 廃屋と廃校

有福島の集落は冬季の偏西風を避けるように島の南東側に東西にわかれて形成されている。現在ある平地は近年の漁港用地造成によって埋め立てられたものであり、もともと平地はほとんどなかったため、島の谷筋に家が立ち並ぶ。

上述したとおり有福島の世帯数はこの半世紀の間に半分になっているので、その間にいなくなった空き家や廃屋が目立つ。

一方、戦後のベビーブーム期には大勢の児童・生徒がいたので、有福島には日島小学校有福島分校が置かれていた。児童数の減少に伴って1977（平成52）年に隣の日島小学校と統合しRC3階建の立派な校舎が建てられた。しかし、児童数がさらに減少したため、1997（平成9）年をもって閉校になっている。

その校舎がそのまま放置され、広いグラウンドは雑草に覆われていた。かくして有福島を含む3島から教育機関が消えて久しいのである。



草で覆われた廃屋（左）、廃校になった旧日島小学校（右）

## 有福教会

西地区の海岸道路のどんづまりの少し手前を山側に50mほど登った高台に有福教会が建っている。新上五島町には合計29の教会がある（中通島：25、若松島：2、頭ヶ島：1、有福島：1）が、そのうちの1つが有福教会である。

上述したとおり有福島には文政年間（1818～1830年）に神ノ浦村（現在の西彼杵郡外海町）から203人が入植して、島を開拓している。大村藩の藩主（大村純忠）に追従してキリシタンになったが、その後の豊臣秀吉による伴天連追放令でカクレキリシタンという土着化した宗教を信じていた人たちである。

明治維新後、欧米諸国からやってきた宣教師の巻き返しによりカクレキリシタンからカトリック教徒に改宗した人がこの有福島では多かったのである。ちなみに両隣の日島、漁生浦島にはキリシタンはいない。

この有福教会は1927（昭和2）年に建立されたものである。若松島の土井ノ浦に教区ができる前は隣の奈留島の小教区に属していたというから、今では五島市になった奈留島とのつながりが深かったようだ。



有福教会